廓宇久爲壽

全

へ13
2132
92

13特
2132
92

廓宇久為壽序

濁水。情ふしといえども。月を浮べて。自らつ。清え。草木。言ざるども。雨ふ値て。自然と。花敷く。和光同塵ハ。結縁の始也。八相成道ハ。

以て其後を論ぜんとすや。倩〳〵
維者べ。飛光落葉の。初更錯ふ。
雞妓伽闍の。有為轉変を悟る。
雷光石火の。影の中ふ。生死去来の
睦言も。如何定離の。別苦あらん。

夫世の。幻相を。視ぜ。ふ。市桁廃
まて。大和柿都り。磨草稿裏く。
撞光顕彩。其苦労ハ。屠文の
両師。凰東獺妓ハ。志摩登美ふ。
名高く。三弦の。酔書ハ。蜀先生ふ

止め居り。青樓の小格子ハ。帛摩
料理の。摘物ハ。西河岸の
鶴吉風呂。青善の。蝦蟇ハ。
却て八丁堀。八里半の角炮。皆
流行不圍ぞト。獨嘆息ス〳〵

たる折から。訪て来る。通子あり
書肆。鍋素堂の主人也。千昔
先生。去年。編ル。籬の菊ル。
後編ハドデス。如何で。萬蓑の十
蓑ル。待て居ると。グット真

面白。催促ホタツト呑延。山桜と。
若そ揺て。それや今春の主人
どん。窠ホ廓の。詰ふるべし。
落花ひとよう。心あまぞも。流水
矢ホ意あり。行ものハ。如斯耶。

昏夜を不捨。嗚呼繁花哉
春色人を惱して。眠を得ぎ哉
と爰ぎ。

豊樂卿之隱士

戊寅春月 山人誌

白水画

○目録

○前章ハ
入相の鐘ばかりや已ぶ多の。をるを
知らでそ行をまつふらん。そのところい
渕愛じて瀬とあるの声。寂〻として
口を閉ぢ
花よりもあぶ多をび拾あぶら。矣を
逐しと待ぞとうあきぞ。そのところい
沙ちじて巖とあるの頌。洋〻として
耳ふ満つ

○後章ハ

難の花後編

鄙宇久為寿

山人著

○前章

花街の春色。柳栢の光景。俯て察。仰で観ば言偽なるの。四季倶ふ。紅白妍を争ひて。貴妃を欺き。李夫人を靡を。その章臺ふ。登るの嬌者黄金を。砕のぐく。鼎を鍋のぐくふ。拙て聊

惜む心ありきハ。殆侠客の謂あるべし。栄枯衰楽の
相追ふこと。昨日の現今日の夢。推り常有とせざるん
や。人皆目前をのみ識て背後を視ること少し
只時を汲営ひ事業に遂ふ元結の悔あることを
知る者ハ。古今ふ稀あり。爰ふ竜五の客。忠兵衛の
横川ハ。相別涙てより。恋を除て真実づく乗ふ
漆膠の契を深くしが。情を解く身の悲しさに
偽惑。彼も浮萍の。漂ふ住ものの我らとなる

まさきちきき人やあり。同じく情の捨がたくて。風ふ尾花の
いと乱まほく。結ぶ契も清茅尾の。あめく籠そら
恋れど。あまりと人の目ふも濃れ。ひろ仇名も立田
姫。ふさ及まるるもやと。疑ふ中の島五の。きみく
八たくが身を。哀の歌と思ふのうら。そこ竜も竜や
を。為ふ引。中の浦やの客とあつて。横川がうらく
通ひ。くべ。横川これを殆と。心きひ。中く右へ
ふ換て。八たくふ身をまうをべき心ハ。家ぞうも。さ

ひまなど。あるあり。義理の難しくも。嬉しと花の枝
をとりて。人せさる。憂気なる。ひとくいよ〳〵
心も荒磯の。浪小流〳〵。拾小舟。定めなき身を。
あるとも。忍ぶ山なる。意衣折りひの火を。柳川が色つく
と。こゝ〳〵。こゝ〳〵。客もさるまゝ。仲の町へもそで
まゝ。ゆゝ。拵〳〵。紙生もけしてもそでの内所うら
會禁も今。出さへ。ふ一國ゆりさんがかも
。仲の丁八右ゑが逢ひとて。出るを待て出さへ。紙を

遣ひ〳〵。眼を。人目も恥ぢ柳川を。行鄭あるなる
傍如去人。何解語もあらし。吹三室山のもゝ時
氣も紅葉なり。いろ〳〵と八右ゑがまゝ。今さ。俗方
あく〳〵。想ひきを〳〵。髪切て。涙〳〵。涕もゝ余金
。八ちゝ菓の。あふで。蓋せる。出さへが。新
夜の仕立。柳川ぶへ。髪の。類〳〵。接て。差ひりものを
呼ば。我さを。伽ある。浮名も。口惜や是人よ。斯る
薄情女。かの〳〵。契后。媚施。客徒ふいたせぞ。あき

きはくと。脚をさくそくふ。立歩新折らら。殘四
の拍子ガッすり　そあし　和傘。時雨ふ　そそし
前編の。末哀ハ荒增かくのごー　右　なやのの、
久ーぶりでおんざう　高ひ　ぶ。お　ぶ
芝居ハトいひあらとあがる　3　女ぶ　ヤ　さんよふ入ふ
まーさ。洋ホおひきーぶりでどぶまふ　右　ひさし
ぶりでも　先刻　十間　ヤそで
ぶりはさくぶう　和ませんで。おんそれヤはし

島屋へ。おひでぶりまもく　右　イヤりふ
やも。面白く　ら。天狗もとの通ふ。此門ふ仕
ようと。おりて来さ沢サト　亀吉
おりて　ぶん　ぶ　ませトひざと二ッさんと
そぶく　二階の　ぶ　のらふ入
らふまるはもりざら。おを送ってまさせく。彩
ぶけふ行むふの。蚕のおを高れもくヨ　3　アイト
ハぶん　拠竹ざヨ。お屋りのもちらく見ーてヤ

三らく
あちる 龜モシ 梅川さんの時日の拍子も承あり
まーさぐぞくいふもんでござりまを。何ろーもやも
困さようをでどざりまーさぐ。涙まーさろる 忍井
戸端の。柳みろーをとるもうふ。涙のさ女移へのと
ろ云さ和ぐおさもらぬく。沢サ。いろてくアノ梅川と云
女ふい。えろけふよら移へさんぐ。深ゑろのざヨ時るの
沢ろら。整と又なさるもあっぐも内ふ居ても
ゑぐ涙ぐ。さろて和ての通ろの沢で上るるも

ちら移へゆく。遠曲ユ面でまこ十斗。今夜ゆを身
ぐ。ふ梅川ガ。ふ移へ行てふ所がまろ。ゆ。ろ時ふ
さ。ゆ。グット。ふろぐ。入髪を引抜て。こんるふきもを
ぐ。涙さ世さ理屋さ。あんな女ふたア。知ぐふ逢ろさも
ろちの不運とい。云ふぐら。家出されさと。おもふと
ぐろる心怒ろる。ろうサ。ゆ。ろくく。腹立も
せぐ。猛歩ーてろちへ楽さも。幸まふ場る未来
ろ。昔別深の和母ーい沢サ 龜

ようす。あらら。まあ。なんぢやの。あの。ぶつもあるぐぶう
ままを 右 何ぞ。あるひるあ。なんぢ。移へ。をの。作。をこ。を
ぶつて。あく。ぶつ。あらうへとやうと。言へを。寿。繁ふ。拂て
や。きるだうぐ 亀 そりあらあるあの。出。ぶ。性ぐうら
何。あもをこの。所。だや。ぐりませんぐ。長。横川さんの
ところぐ。扨。きの。毒の。沢さる 右 横川がとうふ
なる。思ひ。切て。仕。と。ゆ。ぶ。ら。又。あるが。面を。踏んで。ん
せ。移へ。けるや。猫。がちれやせん 亀 そりやあるあの

出。疑心さる。横川さんれ。張ちやうぐ。ふもそふ。ぶやあ。ご
ざりまるぶ。めへ。トそのを。ぶう。ら。二ちいのまへ。ぐや。へと
ようやあら出。接。ようへ 右 ふそうちらうちりぐらう
まあ。出。ぶ。て。来や。あう 亀 まあ。一つ。めへ。上て。トあ。ぐ。まりの
ぶつぐ。ぶて。ぶ。しさうぐ。ぶ。先。例 右 ヨロトあり。サトぐ。ぶと。さあ
ようぶ。ふ。ゆへ。あれを。ぶ。ぐ。ふ。つぐ。んで
あ。あぐ。けぐ。今。日。ハ。ぶ。ら。ら。吾。続。で。せ。ら。移へ。へ
トあを。ぶ。ら。て。 亀 モウ。ひ。ぶ。ろ 右 モウ。ぶ。へ。へ。ぐ。へ 亀 サ
ようへ。あ。ら。トあ。ぶ。ら。ぶ。で。ぐ。へ。ぐ。ま。も。一。す。と。言。や。へ。ぶ。ら。ろ

ぞうりかがよりふごぞうりまをを 右 ぞうり法がありや
あるうトみいそのでありやをこの出るかをてを 万 モシ 若だんな
たのこもちまんをたんをうけて
ぞうりいふもんでぞうりをへ私いおあさがへらうあや
つさトなの。あひで 引 ぞうさふが 鶴さんハ。藤を記て
一向むちうの大 撥き。湯やの 伊東ふ 承ろうて
そやうりの。強勢ふ 勝を。洗しまうく。それふ
いあくさふ。あまうあひで 鎌るそて。あまうく
逆入といふ 指子。ふうら来るかふ。家 通てコレ

ぞうりじませ。る 無 智華の。ふうとサトいふ。痛ふ 鼠
ふ式 あ イトあぞ 右 その家 者さのふ。ゆれぞョ
万 ヲああさだへ。それそふ 知ど 痛さのまくふ。今まで
眼やうく。思うて 居ます。ふいさふと中の 湯やゆ
鶴川さんの 弟が。ぞうも 由 気の毒でぞうまをゆく
いうきあ 一先。 指 て来てあせく。 ゆ サット
長 通 山ふ。 て 物と。 毒を ふくて 湯 毒
まくさ 和が。 却 ふく あさ ふて ぞうふ 毒 度。 毒やと

[illegible]
[illegible]
[illegible]

でござりまもがきろと尋惑て大方
亀やへ捜してやりまもろ
コレあのふや分ハぞんそふろてのおもいがうを
おろかがうを呼びのごョおそ客ちら茶吉ト秀次
がえ気でよろろ〜 兎 アイトたろて 万 まぐ一ッめー
おろりまも 犬 いろさ及心のおち身さおで一杯やろ
カノトさがきをろけるろやのてのめ
久め吉ろでの平八つれ三まる 亀 ちろ如耶るもで
ござりまもろトぞんじて おを逸ひの来るをまろて

おりまもと 羽 ヘイ中様ろふ 犬 だイを整斗
おろらろでござりまも 羽 ろふ服の涙ゆ夫が一人
おを茶まも 万 ろて おまごつきトたろと今ろの嘆サ 犬
亀今夜の乱舞ハ。義弟ごョトいふハトふのたきふ
ろまんとおハ 亀 ろれをさとりむ川ろまとーるおきまいる
ちろちろ をろふとおとおがとおくとのおきろつくの
矢さきろれびおんまるとの 庵 ぐんして
きく入まもしさせろれ ぐろろ〜。ござりまも
さろりおろら一す水のろてまいりまもろ トたろて
一体奴亀やハ逃げトのき。毛やゆく金子を持も

幸ひ客あきまくふ。座敷のよくさまも殊
の外よろれがたふ鄙び。美ひ老分ハふ。彫と
つげて。まり 亀 モミたさん上そそ尾でござりまくさ 忠
そろアありがとく。お出のおくくトりとさろくはいしやふで吉ひで吹きさる
茶 ひで オヤたさんろ様ろ人ひきをぶあさも 義
サアくく張ふふ絵てまさ。老角色好ようぶが
婦人のるりざおろ 義次 まるひ 分 ひやさくまぶをして 次郎
まるひもまり 分 ひやさくまくあらあちくの。お座敷く

トあるをもくく。茶碗ぶ。座敷
まるぶぶーるふいるる。
の光景といろた。先上の月ぶりハ十二五義
家ユのるふ。探幽の山水の足和風袋ハ絹
地の古金銅一文字行灯丁蒔絵の花瓶
不四季咲の。扶桑を挿るハ。活茶を五と
ムる根メ。遺物のよハ。湖月茶ふの分出
世一代茶ををぶめをて。歌林ハ茶屋秋の
書見稚ぐの書物を縛ま。唐机ハ

王羲之の文徴明の。法帖物をあらく。書板の
紙ふ筋茶の茶。乳花の尾。匂縁あり
琴ゝい潮の傳を。模し。双六盤い。虚氏の
おのひをあを。あの所。猴ふいるまで。張月い
金紬まの。茶の。茶の拵の拵中の月ゝ。八
月ゝ茂こゝあい紙ふもあ。来の月い紙を
まりの。上い月ゝ茂こゝ。茂こる前後の出持の。上ふ
二を。紙ふふ。俳ぶらゝどの。彩蒲生きん

茶で。茶の茶の後ある。茶ゝろゝどの茶
茶。茶て茶ゝ。茶ふ。茶るまでさゝが茶る
同も。光茶てあゝも。喝くだゝりあり 太
かゝらふ大ぶぢを多ゝ。たゝるゝゝ。おゝく
いゝゆゝゝゝ平ゝゝゝ。ゝゝいゝゝゝ。おゝく
茶さぎ 苦 さゝせんの。ゝを
まゝつて 苦 ゝを茶せそひく 色 ゝこてゝ 面 ゝさゝよろこびあり
や茶明のト茶の茶月の紙を。ゝておゝろやゝと
巳 万 ヤンヤ〳〵〳〵 亀 一すあいの粗茶ふ。ゝさん紙茶
トあんあのふ。ゝ。優ゝ。茶と入茶る。茶。街ふ月をのを

[illegible]が[illegible]ひさしが威あつて猛うふぜ。巫女廟の光ハ。夕暮の[illegible]ふ色まー。[illegible]村の柳ハ。夜の外ふ[illegible]を[illegible]。[illegible]月宮の後仏。天よりやう影向ろん。[illegible]宮の[illegible]地が[illegible]。[illegible]ふ湧出ーーーと。皆附[illegible]ふ[illegible]くーて[illegible]。

まつの[illegible]カツチリ[illegible]ト。[illegible]を[illegible]。[illegible]の光景[illegible]ぐの[illegible]。色くの[illegible]。流行の[illegible]。[illegible]あーとくども。混乱ー

それがそれを[illegible]云 分 [illegible] チト

[illegible]行[illegible]ふいてそれぞふでとぎりません。

[illegible]ぎのトづき[illegible]ちん。チト切[illegible]げのちんー

[illegible]ぞのぞぞりません 乃 いうさふチト。[illegible]の江

[illegible]月[illegible]。あどもふぞりません 亀 [illegible]先

[illegible]ふ[illegible]を[illegible]へ[illegible]めません 右 [illegible]

[illegible]。[illegible]丁のタ[illegible]を[illegible]ふ[illegible]。[illegible]て結ふ

[illegible]ます。 志 [illegible]。[illegible]の[illegible]。

あれば 王 おきやアがれ。手、洗ふく湯をつかうよ 義
まづ、うあざア。さろきらら後を匂ひて。屋をを家
ちさら知ぬく 鬼 ヲヤ手さヨ 万 大方手わど。出てらら
あてびふ出とっふらら 王 ちつア鬼の〳〵 亀 サア
まづ、お用ふぺらつまりまセトおそをさふ 茶 秀
さきふ今ふて、出ぢん亟あの 義 王 万 も絡ふ身絡てふ須和まで送る
美肉ふ美ひ出あ人〳〵てふ〳〵ぐくそ作身て
魚をまち。中の光景忽ち。寂寞と

あり次の刀ハ。猪口皿さ鉢ろうぢきとーて
煙草のぢ。竟おひ〳〵号を挟の下口を
運び出と。兵屋風の和あハ。大屋蓋の三ッ和
飛子さらぢきのそそ猫ア毛ッ新 右 ホイ和ようきうり
ア猪ふふ酔ふ〳〵 亀 サア〳〵ちと。お体ふふさるが
ようぢざりまセ 右 ナア二ッ山 体むひるア。美ふとも和ーぢ
トいふあぢら茶コの上おぢるもとともきたる 乃家 らくあきのちやうへ
ふおりハせんこくぬぢせてちんぢうぢ仕ます 鬼 ふふちやをふてもふ
いざこも 右 こつアきあうぢトとろて 亀 さあうあら。ぢきぢん

よ〻ハ世ハ[illegible]ひ〻。例の通り

[右]あんざ〻ハ内を。葉しげる

ゆうざり [亀]とゝも恍惚ぎきりまを [右]そゝぬるを

出されちゃ。ぬり止も雁ざ[illegible]ゝ。[illegible]を

い〻 [亀]ありがとうゝざりまを。サア〻〻お帳ぶ[illegible]

[illegible]傷[illegible]ト[illegible]ふ[illegible]ひくきふ[illegible]せく [芙]えな

[illegible]ふ[illegible]と[illegible]ト[illegible]ぎ[illegible]ふ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ト[illegible]を[illegible]ちんを引

[illegible] [亀]離[illegible]さん。[illegible]ら[illegible]へ[illegible]義[illegible]

[illegible] [芙]モウ[illegible]ん[illegible]へ[illegible]

今まで張[illegible]。天[illegible]の[illegible]。[illegible]の[illegible]静

[illegible]て[illegible]。ポッチ〻〻ト私語声の[illegible]。[illegible]

の[illegible]。[illegible]の。[illegible]の。[illegible]独[illegible]。[illegible]や[illegible]

[illegible]ふ[illegible]。[illegible]弱[illegible]。[illegible]初[illegible]。[illegible]

仲の丁でハ[illegible]を。[illegible]川と[illegible]

ハ。[illegible]ハ[illegible]。[illegible]ハ[illegible]

とおひつく。[illegible]ふ[illegible] [芙]おまをとあ[illegible]

[右]まぐさ [芙]たぶとを アイおあんあん〜 [右]こゝもや

おくさまだけトうろおぼえでもあるまい。
そのほか。おもしろくあんしたく。
[右] あぜくまちやア。ひろ
[新] 福川さんとつふ別業のおらうあるかの客人
[右] そこをふり捨て
をいなやちやア。ゆうおぎやまいも
あるもよくくまるすト。あふしてあぶなこと思うて
[新] ヲヤそんなあぶなこをおいあんもト
[右] 堂入のるサ。初舎ろうとんなるす
をつふのもあんまり別くあぶなこと。まんざらえ

[新] モシイうとアぶてまア
[右] あぜくまちやア。ひろ
[新] 福川さんとつふ別業のおらうあるかの客人
[右] そこをふり捨て
[新] ヲヤそんなあぶなこをおいあんもト
[右] 堂入のるサ。初舎ろうとんなるす
[新] 別くあぶなこと。まんざらえ

ぶてまア。でもあるまい。浦やの内でも。
あるまいとあるまいさ。おめくのるすもれば。秘蔵ぶ
あるけて。今ふ表初舎ふ上ッさも。そなくこんぶまア福川ふ
安出されさ。ふ
[新] あんがるぶ。そふおこあんしとも
こんなお。ふて。福川さんとの。ふぶふして。そふふ
るすぶ。おぶふのせう。あるを。ふきあんしー
[右] おくあるふ
まで。そふ思ふるとふふも。ふふて。ふ時しふれど
福川ぶ。ふ。ふ。ふ

八ちゑうといふ宮の。樣ふ身と欲ゝきろさぢ。ーの
心あの約束も。夫約束も今ぢやアうんな。反古と
あり。そそ長く住まちとされてアやアの見えのあるの
うち。はるから身をこうそ。おろが面を踏ゆくけアやア
うふ夫廓へつら出ーも出来ゆく沢それ恋ぐとぢと
宮の内へ上ッとと云ちやアぢふち来ちづひ。ふあれ
ぢも。見も苦界と法恋ーてぢふぢ家今さうん
せく 家 そそやアぬーの。縁とといふんでぢぢふい

ぢ掛川さんふぢふーてそんな心へ。ぢゆくあんをゆくくれ
どそれぢやア添ひ沢もあるせし。餘ふびやさあひ
るのぢ。ぢあんあんをからよく美ーてぢあげあんぢ
ぢよふふぢぢふも。あんふ悪いもトぢふーても思濃
ふ。ふぢふもんで。ぢぢふふをョ 図 人の美ーを生
よふなぢ。ぢくあら形毎ーいれど。ぢ欲知ふぢうり
逢ふて。宮のあふふ消ふふぢちやアるふ思長
ぢふーさ子 家 そそやアるの。縁むといふんで。ぢぢ

ちを。狂ぎて。のも矢張。情慾男の為と。若き者を
誘いて動めをさせふとも悪らまくせんと
考へ心怒て。遂発起ら〳〵ものあり。こゝを
後ぎやア後悔して。後のまぐ如く元のあさりもくで
世ごをちを。掛川さんだりてあり〳〵を。紬ふあんを
るアあり〳〵。移〳〵ろぎんまぐ。銀ろさんりみて世ごり
いまめくと思ひをゆく。場面悪してぐふぐ行て。世面げ
あんしート火ぐちの。そぐふつぐぐてをりのをとろろ移〳〵あて
右のをでぐ火ぐをろちたのの中〳〵ぐをもせりふりき

ぐちへ。右。そのうふふ真実ふ。ふりてうんあるるあアうれ
しのが。掛川が世あ〳〵のうまふ心をとあ。あら。移ふも云分
あしサ。ろちもあの世ふあやア。編されてなぐ今もき
地ぐ〳〵。まア。外出の移〳〵ようふ。見と寄入さ
も。来張移〳〵世作ふも。ふのふと。深〳〵逢ろさ丈つきだ
されさと思やア。グット移ぐ立てふ〳〵ごと来ごろ
匂て。ろるも張ふある移サ。移もふ世の和をまゆ〳〵が
うんあふ。美ぐ立て移〳〵和を。かく〳〵ふれどみ

そこつやア。捨る神あれば。助る神のひろさ〻て
あるさあら。あいつが面を端やうなる。みもあらうし
今とあちやア。さう行くるざが。あから羅さ猿を
えるやうふ。そ牛持も行く多のうく 家 サトまこと
あんふそ人つ沼で。おざアらもうく まぶやア掛川さん
も。ほまふ変ゝ如ふ元で。おざアらをとと掛川さん
そのるア。神の丁でも。るが。あやらを中でそよふふ
ぬふ。思うまあんをとつるよくくあるでおざアまび

十七

も一ッさん清名も主られさくまくあら行あがどこまで
も。ほどげアさ行くけアやア。きを元のをめくも。おぜ
厚が考人おざアまふを 忠 義理とそそ地を主る
心ざやア。まアそ人つ人のサるふらんのようるなく
元ざろう。廓ふあるやア行ふも。家人の猿の主そア
行く 家 サヤろちも家人やア。ふく猿を主せく
して。ふのぞくるふひを猿しのをョ 忠 そアやア家
人の考ひのざハテ如ふ元だって面白るざろう。ある

りめでもあー　そはちでも　あつひ時ふ　はー　くもぬく
るゆを　ゑれると　ぬるも　ぎんく　ぎんく　ふも　心を　怒るよう
ふるすがあるりの　サ　子　そそやア　如ふ　ゑ　の　ゑ　の　ゑ
ふ　ありうちと　不　分　ちまそやア　ふん　ふも　ぬ　の　ふ
るすア　ぎ　ともあー　別　ぎんで　ぎる　ゑ　ら　れ　ふん
ぎつぼくの　ふが　ぎ　毎　ー　ふ　ぎ　ぎ　ぎ

信心を待つのみぞ。ぞつも不社会でこれぞと思ふ
宮人も。おぞろかせんらん。ちんホ苦労を待つのを
右 ことやうぞつもちらしい 素 アレサ ちんのうろ
ざんを。ろんくみのそとヤちのをおを。ずあみてろ
くくこをいよくくのるトさろーとおろんあんー
右 ちろみもそこいつて。おろくもほんでらんかるみこと
きろくあらぞつぞ来て世話をきてあびてくの 素
ヤやそうやう。ちんのろすでおぞろかまろくおろあー

ちんをト殺ホ。ちのろこをヨトやぞちのそぞをたろく
右 別漆の女くみやう。寒生さんるーらんかろの
きそろそんの之をもるる
ちをちひ時ふ。ぞつてちろがつろまるらんろ。自慢ら
いが嬉でも移ート思ひるちらば。ぞつぞ慢でらん
ちをちく 素 ろつちくを移くうぞ。そのきでち生ちをせば
まくまくよびそびくまでおぞろかのを 右 トいいく
ちんの今夜ぞろりの。合せ続ならば思ひのとも
ぞつら。ぞ ひとをろ ふ寒ちろて。らんまをせく 素

だらふしの。ぬーも梅川さんのるすを。ぢあけて
ぢらせくをとらら。初舟の客人とも思ひてせぢ。こんな
るものをヤ。ちいをのサ。一ぢ。ぢうふ。ぢひいをくふるふ
ちん。何ぢ。こんぢふ。ぢ。ハ。摺ひせんトたぢ。ことを。ぢ。ぢ。屏風を
ぐるぢうトたて。ロ。て。襦をぬぎ。後ろの
中へ。這入 作者いろくさまのあり
忠 今まで。私をらさ。代りぢやア。是ら又梅川が
彩を。踏んで。ぢせうとのも。ぢあらんの心一ッぢョ

新 ぼびらふしいをとらくらハ。の。彩の。泥まくを
ぢふるぢ。ぢ。ぢ。

移へのサ。まごころちが運の能のあへ。仕合トおもへの
ようなかふ。元ふ。出合てまんざらこころちがいふるすも
をかしへ。推量てくんなるもんごろ。夫をちくふ
横川が新をんけへを気でを吾のサ 亲 ねしが
ちの気でお出なんせば。おんなが客人がおぎやいしてよ。おん
ふ。ちの主ゞ子。いくら客人がおぎやいしてよ。おん
ぢ。お後相ふ。なるようナ客人が二人もおぎやいせん
夫ごろ子。ざんで時くおんして。未始終と

世話をして。おくんなんし 太 まるうらふやア。云ど世
主への事まで。世話をしこで。ざト云まるまぢやア。女
房ふまる気サ子 亲 はうとりんで。おぎやいまうく 太
ハテいろさん云ひ出しさるやア。及古ふ立ねへ気せうご
からこそで。ふ元ふやア。歌さんいのサ 亲 ふのふ
元ハぢへ。おぎやいまカ主ふいせんぶ。ろちやアさるふ
罠言へまで。くらふ。ふひ。イもモシイぢうしい
るすざんをぶ。おんふ出ひイ。おさョトぶりてアレサ。おさげ

ちゃあんもト。飛で出ざアらをヨト。後へポッチ〳〵の
用結ゐて一向ふ出ざとも。是正ふ死木実況。
むまゝの。時ある哉〳〵　右ちゃあらく
ぎろその気でまやア。恵ふ指立且居績して。知舎
河漢も逢情ゆうぐど。掛川ふ後を渡させてり
てく　弄モウろふ行もかもまあけてヤ　ちゃをうへらら
いどうともその心まろせふ　知イせうぐ子これ　ちゃも
掛川さんの死出あんしてまア涙名も立あんも

程の中で。出ざとよいもうのを。実めてはちゃひ名ー
あんー〳〵るもたんト出ざアらせしし恍惚ちさく
ぎやアかり知も行イもやうるるるがえイもが。美ー
知ちト。そんあるるでもはぎアらを沢あら。やーくも涙さを
ふ。いろて出ざなせあんー　右　知程はあくのちゃアあうの
夏ア。ちゃと知もちて居ちもが。そうやア今ある消して
仕旦ちを　弄そんあらきくふ消て出仕弄あんを
く　右　知れさるサ。ちゃうがを大あうりあーとも来

ろうちが持ち金せん。おさが人のうすをう。皆めをを
ーてもおまえの身のうへふ開うすがあちや。羅が涙へ
あよ 案 そりやア。おまとも おぎやアまいせん。奔きまいるん
で。おぎやアまいもョ 私ろーいろざんまが。悦惚ーさ客人
といろちやア 今夜がそーめてで。おぎやアまいまりのを 出
こりつア。ぎつもおらーい 案 アレサ ちんのとろざんを。
疑をあんまおらう。どこでも改めてこらうぎのート
あをかけあり友やつの 出
うでをまろうて及せる

その臭ひ疫を消させて

ありてんの 案 掛川さんの名を。お待ーあんーさーく
おやア。ぎーとも をふ 共 鞍ハ。まうせんを急で。おぎ
アまいもョ 出 夫ーぎやア まうん 任時も。ろーて金ぎつ手ぎ
トたぎとをまいが。ぎまあり うぎを
まうアりまのからおそをり おと好きけさんとを 案 アレサ お待 ちんーー
たーーう 袋 ものさが。おぎやアまいーーさート おまーーく おきまあり
こぶんをのーぎーーう ちぎひぎまのまをふある
うぎさををり 中ーて とりやア 式 ぎ 客人 ふたのまれて
淋 病の 笑をぎーまんーーさ 拵で おぎやアまいをそれ
がやくふ主 イをといつも。 考法 添ひ 線で。おぎやアまいせう

アまん病の[illegible]。娼妓の制衣もつて。法度新る
不あれば。其法を誌さぬ。ろくもその象くゝ
よりて。かーつの刑いろまども。艾葉の黒焼
い。大擬加味を煎るすあり。右こつファさらぐ
チットあるくあそ。んあせ〳〵 案 [illegible]
ようおぶつまいをく〳〵。れよりたくへ。ぐさをもつて
腕のかり和揚川が名を焼消を。はろち 案
[illegible]。まつと大弾の中の巣を。まん中へ撞巣

煙草盆の。火入の火をとり分てブウ〳〵〳〵〳〵ト
吹おこし。屋風の[illegible]。[illegible]子をとつて。烟
をを煙。夫人の心を感ぜるの。色欲おいあらぬ
ト実へ[illegible]哉。和漢ふ女の為ふ。身を過まつ
るの。おけで[illegible]。指[illegible]
婦い。城を傾くゝ[illegible]。指[illegible]城を[illegible]。指
右 サア[illegible]。[illegible]でいのぶんいたくの 案 ヨやく
まあ和ふ 勝〳〵。さで出[illegible]ぶ[illegible]せつ子へ 右

右 あるかぬそんあでもぬくのサ 案 まア一ツあもんあん
トさうぶきをそろていぶま 右 こうつゃるぢてく。ゞ 結 ぶ ト三ぶいのこ
モウそろそろ。ごろち夜ぶ明るぶごらく。チウト寝るる
ふ。しゃせうトきく。 案 アもサ まぶ色く。ゞ。ゞゆ。ぶ
おぶごろいまそろそろ。お祝ろ。ナハ鯨イせんヨトびうぶをもとのごく
たそまろ。ごとあるトくごろく。 ○ 評ふ曰く。お色。今毛月初舎さハ
いくども。ゑゝを相働る中ゑて。案毛ゑ情穀
ふおりいぶる心より。まひふ言を明白ふあまを

廿又

る。是初とくふ人情の。ゑらゝもゆる所あらん
ゑ。一夜とくども。百夜の紫りを結ぶハ
客の才不才ふろ。ゑ娼妓の色線奔線
ふよるあゝん耶

○ 後章

花冥ゝ紅の始。清るりのハ艶ぶいく。てん
る天とあり。濁るりのハ汚りてちんちり地と

新。其が中ふ人ゐて。三丈の糸をかけまくも。
実や賢き加ごゑふ。三弦の棹しらの。八乳の高
しゐ浮立て。宮浮しふ編しのくが。金をりふを
神代のむかし。しよう。面張くも情深も
その岩戸の奈の中。闇きことを為ものしうふ。情
も細女のみとのふ。猿をたちからをの力疲いふ
神がるるとあるべし。爰ふ幕嘉が妹ふ。打ばるう
岩風子會方の。とり扱ひが糸ふ長くと云て

夜更小更ふ若を呼寄。床のうへふ大安坐
銀の煙管をヤニサカ。ふかゐて。人恵の左平らく
風 コレ家の内の。東風うア新後くが。成佛不遠さ
幽霊をゐるやうふ。時ぐ面ア出しちゃア。姿源吉新
ふくを。汗ぎくぐの子仕事ざのト風ッ吹の湯屋を
ゐるやうふ。名を付て。お寄さゐへ出しても。燃と思ふ
其方がナ。おぬしんごで。寡ゐてきアゐ。市の。
入札をゐるやうふ。ゆしく消ようのが。長ふ今ふ後

それハ結ごゝろでぐざいます　風　蔓瓜の えびぢゃ
行くが。来世おろーふまを新るも。知て居るがえん糸
るアこちの畑ふ行くてんざ　表　玉極山おさるで
ぐざりまを。居あの おとがぢくぐざりまを。ヘイとと
風　コレ　報迦の。延生を見るやうふ首ゑ菓子
さまちゃア。牧丁等があら行くこく　表　イエぐ人仕
まろりまーて。菓ふ行ものゝ。入仕るの
茶清場でぐざりませんぐ人行くてへりく

ト申せうふあやまりて居る客ハ。まろく。
あってたいさまをあらぐ仕ましまろく　折　紙　伊のさんを
ぐざらーい。美く元を おろびあんーて。大きふ声もの
毒でおぐざりまをョ。猿の おとまあんをるが。おぐざりまふ
場悪ーて おろんあんー。ぐざらーいト美の おふ　茶
たア行せくョ　表　ハイ〳〵　さあろあふ。仕接猿ふ ト表の
ひかりあぐざらぐ出てんでたぐらがぐの　風　三番ふ ひら
大きまをッたらーめトロのうちぐざりあぐざらゆく
おとまあーく表。居をやろあんまり安く高やアが　折
あんぐざんまく。ひてく行くと の おろ寅人を。番来ふ

殺イをトル腹ゲあさゆのをョ。給るゆハるたらるねぐち
の。るゆざんをくら丁鬼表ざト。ムをてぞホぞっぞ
まてゆてんゆんー 風 コレそんゆ。ちゆハゆを出ーてゆナ
ムゆまうま。ゆ客きるゆだゆ 折 ヤヤぞくらーハをア
るをゆあんゆをくゆ。ゆ客ゆ 賀ぞー 太江山の酒吉をるゆ。ミ
で。ゆぞるハを移ゆ山伏さんの料理ぞんが切て居も
所ゲ。小冊ゆるゆざくしふゆぞるハをョ 風 コレゆくゆるゆ
ゆョ。くくらるまんでゆナ。ゆるゆの物ア八を偽の換料

で。モウ続と入者も義和アー移ゆ。夫猶も後を
解ちゆア。色くゆ深ゆ。ぞのにまくハ思と
まるんゆぞくく。年明和の欲ぞで。ゆ計元へ
くくそくトはるゆを敷ゆてくまくるも。ゆ大くまくぞト
ゆくらさんゆのさーあいをまくくうぶりふゆらぐゆくるとくども
ままぞゆ大くゆのくぞちゆくゆんぐのゆゆぎのちゆゆホ
ゆくくくゆしく。ゆゆーてゆくくゆくゆ。ゆ鏡ゆ
まぐくくトまくゆ心のくち。実ゆ苦ゆと借くぐー
えー君子ハ和ーと同ぐくせぞ小人ハ同ぐくまて和ぞ

后の徴種とあれそ。古今の来至あるべ
話説も忠臣へ。義士の義が赤心の情ふ。惟こと
して思ふぞ。孫聘の妻を結びしも偏ふ掛川が
志を不審。一朝の怒ふ彩を忘れ。義ひふ
断るるの兵ありて。夜明ぬれど岳嶺の。二舎別
孫ふ一孫義ふ。音の生義又夜の光来
兵。大ひふ兵ありて。湯あぐの娼妓。塩一の朱
を奪人。紫の涎ハタアの色の。伏みして新

ふ畑の雑妓ハ。百姓の娘あもあるぐ。くふぞ。そば。そぞら
けふ兎。粉屋の釈判あもあるぐ。知窟も。あを
たと。屠ん屋のお蘭ぬ。瓶の。ろる妻まで。辰宗
知る◐の世界。綿の裏ふ。ふ。れば今文又
いつも。ぐまりり。義ふまさ掛川ハ。妻義。義が
義義と。ひあハせの。伊姑あて。往来ひ。隅つ
むり。ぐちらも同ド。義ざ。ふ。太ふ。が知ふ声
幣同ぶ。堀義る云ふ。ふ。ん。ぐ。兎が。ま。ー。ま。で

を不ると云ふ芸なのうち。見世開じと云ぬ牛の
拳動ふ。梅川いとゞ悲しさの。泪ハ河内山名と。思
ひの奥のかくもあくと。お封ゝ一人森ハ昔もさび
しき屋風の中。藤か邪ヶ[illegible]ふさがせる
なさとうけて来る
えんぞうむかもる 梅川が枕ものとく。ろうそく屋りて。
央 モシイおやらんへ。幕を張る。二階ハ右衛さんが
おやすみして。アノ猪ぎをおやすみ〳〵さらおんまりる
仕方とおりつひをト。つろそ口惜らてあるせん。おらん

の客人とつもるアア元街中どうんハ来ていまら
ざんをらん。附 所の兵をおあげあんまるも。長やの
中亭さんを。呼ばあんして一番ハ。おづらしくおらんん
まづようふおさらをもまづ。猪が立てあるせんヨト
ちさきをあるこうとてあるこざる 梅 先きうら仏もかも。なして。猪イをヨもの
るゆめん身とハ。つをくれどあの矢をくゆをヤて。
まつ〳〵さうて中り〳〵。芸人あんをおもくさんの。長せう
でる。おさらいせんらハ。まあをの心の後いをやどゞ

でもあるんまが。よゝおぎやゝをトあのびあるぶの友ちどう
あるゝく　ぞろ〳〵ぞろ〳〵　わらわらゝ　二　モシイおあらんへ今わべさん
うゆろうゆめ　こゝろさんおうけまり
ぐっす。　幕を引るさんをおあ連あんーて。仲の丁へおあ出あるん
あさ。　橋子先でこゝろいろそおいらんのるすを　恐くおあひ
あんーて。あが悲ーろてあるこゝせんトさとふあれさろるまで
めのあるてあるれやはし
ふゝう　掛　モウ　あんあるおいくあんまあ。　こまるどまでふ。　苦
ろう　男を殺いーて。ぞゝぞろうこの　恐会のいゝようふト思いまを
ゝゝゝ　ゝゝ
ゝゝが。　ゝゝまゝ　せんでゝんあ　笑　辞ふ　会イをとるあん

その四計でおぎやゝせゝ　邪見ふさまれびさまくまあど
ゝゝゝゝゝゝ
為来徐がおゝゝゝーて。　仏のるも思いてせん。たぐゝのこと
ぞろゝう。　ふゝゝまゝ　深く。　悪縁でおぎやゝをも　変
おいらんの心が。それでおいらんまを　抱ゝてあいゝ仕
おゝを　あさゝゝをゝら。　あゝく　後ゞ　立イをトハトいま
ゝの。　宮多くさんまあも。　この　分っておあんを　多ん
で。　おぎやゝをゝゝゝゝ　ゝゝゝく　立いーたら　今あも
おあまんまゝ。　多ゝゝ　で　おぎやゝをいま　今　仲の丁へおあ

あんまりさあらう。大方亀やでおぎやかせやうら。横二を
遠てチヨツトもくあらしてたいさくさんおよくそのぶを
ヤイきて。おらんのありの。三つをかふぶしいせう
横 おありがさん。おぎやかのをぐ。寿さんも。おをあん
もりんぐら。義をとがひろとをんぬ。ぶくてふた
義さんもいろく。出おこーあるまで。おをひあん
をかふあかしちや。牧ノく。和をかく。ぶさんぐら
ちあ。拵て。亀て。横さをぐらじいー 夷 それでも

あんまりでおさやかいもトをを地をみがく。鄙のあ
らん生実津ホ恍惚ヲ元そ。唱妓ホど情
の涙きいあふ。夫ホいあふでたをくおぶはるを
伸ひ。伸の丁の亀やの二階一ホ隠れさ。ヲの
拝びもいろ。今を馬西山ホ。玉兎ホ海ホ
肌まて。花まさ。ホの色浦く。流ろ。こ
夫。稜の。時を知らんや。夜ヲ世のもがき
チヤくラゴシ。素ヲん。北まうの。そをぶ

イタコ
おさ〜聖の系ふ夜昏あのきをしぐ〜を思ひ切し
き目一切をと巧く おだと来るうやァと田舎のをーこ
まで出てアんさが いふことも。ろく〜笄ぞふ。後ろろ
来至てん関さ風アん。そばうりあまぎけ。あつとうん
コリヤいよさの。まいあもで。えくふざんザ ○ 五造五造
の仕来を。猿〜と変形一隧ハ。素ア屠ふ岩
おろろ場の接猿の。千ちるあ〜実あしのうら
訓深。今ちるもあらして。五後ふ本華のゆめ

おや待ぶらん。吳ふ又幇間万四ハ。ひて梅川が
息沢を。ろ。ろ。ぐ。ろ。ぐ。ろ。ぐ

いと一すぢもおきらずふとその穂長い蹴り入り
太郎へ入魚やへ立込湯豆腐の惣菜ひろ
うけるとも引絞られぬ冬の終の掛ひメて小袋
三分三朱あッ和よんゑ組合うら。そんぶむぎ合
を寄つさト。おひとをろべくそろぶんのおげて居
くるその西へ入来る横川がきんぞう横来まと
弱 [太] 横来さんおよへのお寄をおろて後をとく
[夷] イヽエ至ふちうとそそちーが。ぶぶまーてめく

アちーくヨ [太] ハイアおまとも。おめくあるアナうト。そそあーが
ある。サア湯ぞうふご一ッ五ふ [夷] おありがとうふ。おぶご
アちまも一ッおちくぶきアーいせうトそぶふあるちゃそれ不段
ーいせうトあそうきうで一ッくけるもおえふいくぶきあれがさみ
のいきあいみぶうーぶそうこんせんトタぶうろあり
[太] サアくヨ豆腐をそんナ [夷] おありがとうふトゆどうふの
モシイ来さん。おらんのるるざんをがるトの出をを [太]
横来さんその物も出ふぶノ。まアそうちが影を
出くれのてそんあせく和のるすでも移くうとそ

張合で。五日の晩から。寒氣やふ。居續きでも
行さ間とう。みその間も。知てのふり。皆らく離
の居まして。今彩の動定ハまア。貸てくまろな
いひまて。人を形んでゑようせるまでも。懐中をこん
らゐる口惜サ。あんと。梅川ふ。聖の男。十表ばかり働イ
て。貰てまて。くまるるアいまやくうの〔表〕ゆーの
お国りあんをるをを。やいまらようやあゆらんも
いやとを。おうせをを〔裏〕今とあうちやア。俄合いまと

ゑれても。仕るア。稼くが。そこが。昔。親孫と。和義孫
ざ〔表〕そんあら一す。行てを。くアいせうト。毒ぎうち
あり。て。彩と。梅川ふ。者げ。ゑれば。梅川ハ。者て
お多くお幸らんと。ハ。ゑうより。世ゑ一十表の
金をざうト。射ま。ア。毒ゑるを。毒ふ。梅毒ふ
ゑ一ゑるまく。梅毒ハ又。毒やふいうひを
ふ。ゑれを。ゑを。ゑを。ゑ

上ゑ入れ給へ。と云へば。あれば幾ばく
切て。それを債よ。その文云ふいとく

一をしふさよりくんもこをしをしよくそわか
屋ばくの男ふあまるくぐこをといきく
そのおとこんよりもきくて時をき金ドそ
しそんへさうそもそうあきいくともちぶぬ
ひろそよともふをしのをるとゞんとうそあ

ちふねうひことさよれまうらふらせも
こをふうろうの世るひしをまとこそのむ
あさんふさこそおひしくおわまそらとうみ
るをうこふうくあこそうりしいし

ト債より右へ人のうちで物入横川入我
ふ人持られしそそ死る見惜うて悪ヤト
おりぐ泪のハラくと又立飯る物忘の表

不追。真実諍暫くく。言葉あらくなる
夾 あらんの苦労も。うんなるのたゆで。拳子の
ものをおしへさろしてれとあんー 因 うんな
ろうち 口 契方ぐ為るうろさ。そこ方扶まいはなとぐけ。ちゃうト
ちょうこ言て保らうらさ紀く久つて契礼を。よくく
あうん いろ 板川くこてくうや 因 そんあらうるふぐ。拳出ふん
ーヨトことろく 因 コレハ板妻きんけーふぐ。拳
まんなまり
ひ子。時ホモウ 拳久 拳子とうく トあっぐうられてうられる
もうてせちのとあるぐ

見拳やうでぐざうまうる子 因 イヤきろいうのナことと
ぐやうそふも。来絲ぐ紀るきさぐ斎も殆ぐるも。紀き
の毒ふうんざの 因 いうう友のよふ拠と撥の毛角力
うう友組でうら。貢さものぐふ運サ子 因 いうき友今と
ぐあうやう。さくより布ホ志要ハ紀くトこまよう長や
へ勤夏を任巳万里を連て。西河巻の丁子
風呂ホいさる。拳く〜契京湯ハ寄世流紀ホ
まて。紀て會摩の風流苦こし英ふうせう

折詰懸盤の。美菓。蘭菓の器ふ美く
を深め。五ぐ〜屋の菓子。乗焼の皿ふ奇
麗ふり。美く行の庚吹ハ。口切の式を学ぶ
屋能先生の画ハ。賓客の目を驚ろを
のーこん蛾の。雪てらゆハ。萬歳の姿ちを祝〜
まく若の帯を。ちゃとも きう目を四〜〜を
廷上の雅ふ。俗根をを忘れて古今別の世界
ちり名。ちを〜ハ見より万ッふ別まて。兵獨

梅川がもと〜来ーも。幸兵衛がよ〜まへを
ぶらぶ新包。隠せど色ら梅ぢちの。役ハさ〜ふふ
ちを〜さんト。足ふ踏られ〜ふ乱ふも分ぢ。よ〜新や
いふ。美ぶ。伝ひ寄ぶ。梅川が面ふ目
さ〜ぶ性のめ立。じとア〜よぢ今ハを乱
の結合ふ。妹脊ふぢつる山くの。根ふもよ〜や
よ〜の川。幸ーー流まとの分をくを。幸ぶる
屋ふ。雑技。美口ぶ不一よハ。

胚 私ども。客人あらわれ出あんを聞。大いふ驚く
て。おまとりて手つまを斗で。おぎやうのもヨウ気性を
して和泉あんしヨウト。つゝ声ふゝ梅川がぎしき
より〳〵刹清しで和泉あんを。客人へを
おもげあんまトいゝ。万治以来でおぎやうのもヨウ
客方の客人へ持てもあきゝあんまト。時があさ
ゝをヨウトロぐふを 梅 モウだまつて和泉あんし。ろ
ちゝら 結ぶヤ イちちやゝ。私ゝ和さやうのもトゝ

忠 こんなるヤア和泉あつて。和泉が梅を言がゝト
見より車屋ふ居ゝ。色〳〵下界倉ふ好く
時を稽〳〵久る。義後の光景くしるれば嘆き
忠臣の大敵酌とあつて。梅川ふ伴き家ふいるヨウ
ゝ張傷まて。義後忠大の家形の。寝姿ふフワト
ゝの酔つ。腕のゝり和泉く猛れて酔〳〵さ張ゝる
より梅川見ふゝ。涙呂一器ふ和泉ひゝ。男人の
妖姫ゝと。ゝをゝゝ。ワコトゝゝふ嘆き泥

[illegible]ん〳〵トぶり出さて 拙 ホツト
[illegible]ハ[illegible]を[illegible]ひ〳〵さト[illegible]
[illegible]ハ[illegible]の。引[illegible]
中。雑[illegible]病 病[illegible]。[illegible]の[illegible]ハ[illegible]
奥 モシイ 栗の。粥が出来イさトつゝれて 拙 [illegible]
[illegible]ハ[illegible]たゝけ[illegible]。チットの[illegible]トロ〳〵ト眠アの
[illegible]中ハ。[illegible]を[illegible]ハかゝり
[illegible]ハ[illegible]。[illegible]ハ[illegible]。[illegible]ハ[illegible]の

抗ハかゝる憂き[illegible]ハ[illegible]。今ハ[illegible]〳〵[illegible]
[illegible]方へ彰と告て。武[illegible]月[illegible]を幸ハ
[illegible]別荘と[illegible]ひ出二の口村[illegible]の道[illegible]
院本ハ[illegible]て。[illegible]を[illegible]ハ[illegible]ぬ。

廓宇久為壽大尾

来年歳春發販　山人著

名の出 唱妓 筆硯

花街壽圖女

うき川行ふ所よりくとまる。星まぐめいらうを八幡の
さくせんより。緒をとゝのゝ級生舎かどを乗せくく
五つ祢。目出さく祝ふてチョこ〳〵まく。ちゃてより
とし。矣のうんさん極秘偽い。茶と祝ふ。石ろふ
ふれろ。知るものまちん